

2025年度 活動状況（職務執行状況）

日程		名称	主な内容	出席者
4月	28	研究会 代表懇談会 市ヶ谷	各研究会の活動状況の振り返りと予定 合同研究会の開催方法検討	研究会代表 5名、松本企画委員長、 齊藤企画委員、フェロー 2名 など
5月	20	監事会 財団 オフィス	2024年度 業務執行/事業活動の監査 2024年度 計算書類の監査	谷舘監事、服部監事 小林専務理事、事務局 経理担当2名
6月	3	理事会（決議の省略）	2024年度 事業報告・計算書類報告	理事10人及び監事2人全員から書面で入手
	24	第14回 評議員会 御茶ノ水	2024年度 事業報告・計算書類報告	前川評議員会会長 など評議員7名（総数7名） 遠藤理事長、小林専務理事、谷舘・服部監事
		ATF研究会「講演・交流会」 御茶ノ水	講演・新旧研究会員の交流	評議員、理事、現・前研究会員など
	27	内閣府提出	2024年度事業報告・計算書類、付帯資料	事務局
8月	8 9	企画委員会 長野市	第12期研究会、役員改選、創立40周年 ATFコン実施企画などの重要案件検討	松本委員長、遠藤、森田、小林、齊藤、青木
11月	9 11	第3回ATFコンファレンス 静岡県沼津	招待講演、奨励賞授与式、助成成果発表 5研究会、合同研究会 など	前川評議員会会長、遠藤理事長、理事・評議員、 研究会員、奨励賞受賞者、招待者など 計103名
1月	15 16	企画委員会 長野市	2026年度事業計画・収支予算、 資金・投資などの重要案件検討	松本委員長、遠藤、森田、小林、齊藤、青木
2月	24	奨励賞選考	2026年度採択者選考（理事会推薦者）	齊藤研究助成選考委員長、森田副委員長、 渡邊委員、湯浅委員
3月	11	第31回 理事会 市ヶ谷	2026年度事業計画・収支予算、資金・投資 特定資産、奨励賞	遠藤理事長、森田副理事長、小林専務理事 など 計10名（総数10名）、谷舘監事
	19	内閣府提出	2026年度事業計画・収支予算、資金・投資	事務局

刊 行 物	4月	財団パンフレット	役員名簿更新等	印刷 200部
	7月	活動報告書	事業活動、決算報告、等	印刷 120部
	11月	第3回 ATFコンファレンス		印刷 130部

ATFコンファレンス 参加者分析

		2025年度（第3回）			2024年度（第2回）			2023年度（第1回）		
		対象者	参加者	参加率	対象者	参加者	参加率	対象者	参加者	参加率
研究会		67	50	75%	65	51	78%	70	49	70%
理事・評議員		17	13	76%	18	13	72%	26	18	69%
研究助成・奨励賞受賞者、選考委員他		11	9	82%	7	6	86%	6	6	100%
財団関係者 計		95	72	76%	90	70	78%	102	73	72%
各研究会 招待		－	18	－	－	－	－	－	－	－
過年度奨励賞・事務局他		－	13	－	－	10	－	－	6	－
参加者総数			103	－		80	－		79	－
	内 女性		14	14%		7	9%		7	9%
	内 男性		89	86%		73	91%		72	91%

2025年度 研究会の活動状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
界面ナノ科学						10 丸の内		9-11 沼津 (個別・ 合同)				30-31 金沢
高機能センサ						11 八重洲						12 東京・京橋
ナノメカニクス			11-12 盛岡									5 銀座
バイオ単分子												23-24 高知
量子物質												7-8 金沢

	研究会 会員数	参加人数						講演数
		会員	参加率	外部講師	若手	他関係者	参加計	
界面ナノ科学 (千葉大地)	14	10	71%	3	0	0	13	3
		10	71%	3	3	0	16	3
		10	71%	2	3	0	15	3
高機能センサ (杉原加織)	14	9	64%	1	1	1	12	2
		9	64%	2	3	0	14	3
		9	64%	2	3	3	17	2
ナノメカニクス (土方亘)	12	8	67%	2	3	1	14	2
	13	10	77%	0	4	0	14	3
		11	85%	1	5	1	18	2
バイオ単分子 (渡邊力也)	12	11	92%	0	0	0	11	5
		10	83%	5	0	0	15	5
		-	-	-	-	-	-	-
量子物質 (越野幹人)	14	10	71%	3	0	0	13	3
		11	79%	2	2	3	18	3
		-	-	-	-	-	-	-
合計	67	128	74%	26	27	9	190	39

合同研究会

	研究会名
合同研究会	界面ナノ科学研究会・量子物質研究会
	高機能センサ研究会・ナノメカニクス研究会・バイオ単分子研究会

第 3 回 ATF コンファレンス 開催記

2025 年 11 月 9 日(日)～11 日(火)、沼津のプラサヴェルデにて第 3 回 ATF コンファレンスを開催しました。昨年の第 2 回に続き、今回も幅広い交流を目指し、研究会員、評議員、理事などの財団関係者に加え、外部講演者、奨励賞受賞者、研究助成採択者、財団アルムナイを招待しました。さらに、各研究会を通じて若手研究者向けの招待枠を設け、次世代を担う方々との交流も積極的に進めました。参加者は 103 名(前回 80 名)と過去最多となり、招待講演や研究講演、合同研究会、そして深夜まで続いたナイトセッションなど、活発で有意義な 2 泊 3 日のプログラムとなりました。

最初に、遠藤守信理事長よりご挨拶がありました。

当財団の定款で示された目的は「異なる発想を持つ人材による専門領域を超えた研究の推進、及び新世代を担う若手の育成に寄与し、もって人類社会発展の基礎となる科学技術の振興を図る」ことです。コンファレンスや研究会は、その理念を実現するための重要な場となっています。

近年、急速に発展する人工知能(AI)は、2013 年にオックスフォード大学のマイケル・オズボーン教授が発表した論文『The Future of Employment』で「10 年後に消える職業」が示唆され、世界に衝撃を与えました。その中で研究者への影響も指摘されています。一方で、AI が不得意とする能力として「創造的思考」と「社会的知性」が挙げられ、創造性やコミュニケーション能力の重要性が改めて強調されています。

また、2021 年に京都賞を受賞した哲学者ブルーノ・ラトゥール博士は「科学は孤立した真理の探求ではなく、広いネットワークの中に位置づけられた営み」と述べています。昨年もご紹介しましたが、マーク・グラノヴェッター博士が提唱した『Strength of Weak Ties(弱い紐帯の強み)』のように、ちょっとしたつながりから新しい視点や情報が生まれます。ここから生まれる新たな知とのつながりが、皆様の今後の研究活動をさらに豊かにすることを期待しております。

最後に、日頃より当財団の活動をご支援いただいているセイコーインスツル株式会社に、心より御礼申し上げます。



【招待講演】

五神 真氏 国立研究開発法人 理化学研究所 理事長
「基礎科学が創る人類社会の未来
－ 包摂的で持続可能な成長に向けて」

光量子物理学の研究者、そして東京大学総長としてのご経験を通して、地球と人類の持続的な発展に向け、アカデミアに何が期待されているのかをご講演いただき、参加者との活発な質疑が行われました。



【鼎談】 ディスカッション「日本研究界の良いところ、悪いところ」

杉原 加織氏 話題提供、高機能センサ研究会代表
一杉 太郎氏 財団フェロー、元界面ナノ科学研究会代表
齊藤 英治氏 財団フェロー、前スピントロニクス研究会代表
柴田 直哉氏 財団フェロー、前界面ナノ科学研究会代表



【奨励賞 授与式と受賞講演】 座長：齋藤 理一郎 理事（東北大学名誉教授）

関根 智仁 氏（山形大学大学院 有機材料システム研究科）

「ポリマーナノ複合材料によるソフトロボティクス触覚センサの創出」

小嶋 良輔 氏（東京大学大学院 医学系研究科） <WEB 参加>

「新規計測技術による細胞外小胞放出メカニズムの包括的理解」

【研究助成 成果発表】

竹内 祐太郎 氏（物質・材料研究機構）

「スピントルクによる反強磁性ナノ構造の超高速・高効率制御」

佐々木 健人 氏（東京大学）

「量子センサによるナノ薄膜物性の開拓」

竹内 七海 氏（東京農工大学）

「プローブ利用ナノポアによる体液中がんマーカーの直接検出」

豊田 良順 氏（東北大学）

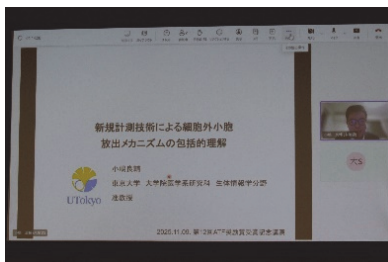
「フォトニック分子ワイヤの開発とその光輸送能の解明」

山岸 裕史 氏（産業技術総合研究所）

「界面イオンダイナミクスを可視化する高速オペランド KPFM 法の開拓」



<奨励賞 授与式>



<奨励賞 受賞講演>



<合同研究会>

【合同研究会 開催】

○界面ナノ科学研究会・量子物質研究会

○高機能センサ研究会・ナノメカニクス研究会・バイオ単分子研究会

【5研究会 開催】

（各代表）

○界面ナノ科学研究会（千葉大地 東北大学）

○高機能センサ研究会（杉原加織 東京大学）

○ナノメカニクス研究会（土方亘 東京科学大学）

○バイオ単分子研究会（渡邊力也 理化学研究所）

○量子物質研究会（越野幹人 大阪大学）



第1回 ATF 研究者ソサエティ開催記

第1回 ATF 研究者ソサエティが、2025年6月24日、御茶ノ水で開催されました。研究会は「新しい研究萌芽の推進」ですが、その芽を大きな研究成果にするには長い年月が掛かかります。その為に、「研究者コミュニティの継続」が重要ですが、研究会1期3年が終わると交流機会が減ってしまいます。そこで初めての試みとして、時間軸も広げた幅広い交流の場を企画しました。

講演 日時: 6月24日 17:00～18:00
場所: TKP ガーデンシティ御茶ノ水
テーマ: 「光量子コンピュータの開発」 — スタートアップ —
OptQC 株式会社 代表取締役 CEO 高瀬寛氏

交流会 日時: 同日 18:00～20:00
場所: 椿山荘／明治大学紫紺館 6階

※参加者30名（現・前・元研究会員、講演者、財団役員など）

~~~~~

冒頭に遠藤守信理事長から挨拶があり、若手からベテランの異分野研究者や経済人が一堂に会して交流することが科学技術の発展には重要で、その交流の場を設けることが、当財団の役割と考えています。

また財団の発足時から支援いただいているセイコーインスツル社に、あらためて感謝を申し上げます。



講演は、高瀬寛 CEO が、大学発スタートアップの夢や目標を熱く語り、研究成果の活用の具体的な事例を紹介されました。またCFOのような管理者が得にくいことなどの課題の話もありました。そして光量子コンピュータ技術の概要とメリットについて、分かりやすく説明をされました。

交流会は、前川禎通評議員会会長の挨拶で始まり、普段は多忙でなかなか会えない研究者たちが、それぞれの研究内容や近況を活発に語りあいました。スピントロニクス研究会では、歴代3人の代表が全員集まり 研究動向の意見交換などで話が盛り上がりました。